

サイトの漢字に 無料でルビ振り

障害者支援団体がサービス開始

専用サーバーを活用

学習障害で漢字の読めない人や外国人向けに、電子メールやサイト上の漢字に自動的にルビを振るサービスを、IT（情報技術）を活用した障害者支援に取り組む団体「アダプティブテクノロジー」が無料で始めた。同団体代表で、システムを

開発した鳥原信一さんは、情報の提示の仕方を変換させるこの技術を発展して、「その人の障害の種類や程度、属性や好み、TPO（時、場所、状況）に合わせて情報を提供できるようにしたい」と夢を語る。

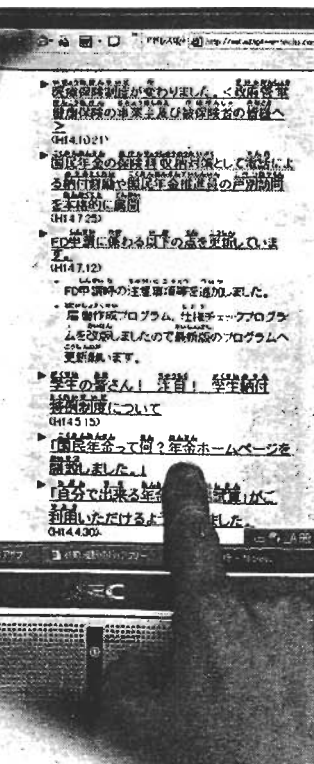
利用者は一度ユーザー登録すれば、後は「アダプティブテクノロジー」の運用を感じるという。

形で利用せざるを得ない。鳥原さんは「パソコンの静止画などを組み合わせたいが、必要な情報をその人の欲しがる形で自動的に提供したい」というシステムを理想として思い描く。

利用者は一度ユーザー登録すれば、後は「アダプティブテクノロジー」の運用を感じるという。例えば、音声読み上げホームページを閲覧したり、メールを受け取ったりするだけ。使われているすべての漢字にルビを振って表示されるが、同じ機能の市販パソコン用ソフトと違い無

料で、携帯電話からも利用できるなどの特長がある。鳥原さん自身、網膜色素変性症という病気の視覚障害者。画面のデータを音声で読み上げるパソコンソフトを日常的に活用し、慶応大大学院で研究活動に取り組んでいる。ITの恩恵を

料で、携帯電話からも利用できるなどの特長がある。鳥原さん自身、網膜色素変性症という病気の視覚障害者。画面のデータを音声で読み上げるパソコンソフトを日常的に活用し、慶応大大学院で研究活動に取り組んでいる。ITの恩恵を



く
ら
し

13面にも「くらし」

画面上の漢字にルビを振って表示される

外出先で見掛けた看板などの文字もカメラ付き携帯電話で撮影してメールで送れば、ルビを振って読み方を教えるようなサービスの実現も目指す。

「アダプティブテクノロジー」で事務局を担当するバリアフリー型ホームページ制作会社「アイ・クリエイツ」（東京都町田市）の羽川和男代表は、「こうした支援技術が実現すれば誰にとっても便利になると思う」と意義を語る。

「アダプティブテクノロジー」のホームページは、<http://www.adaptive-techs.com/>

なぞなぞなぞへの答え

なぞなぞなぞへの答え
http://www.adaptive-techs.com/

生活短信

国際文化交流と町おこしを議論
長野・飯田で来月開催
国際交流基金とサントリー
文七才田は「地蔵文